

## 脳卒中片麻痺者における排便後 「紙で拭く」動作について

新潟医療福祉大学 貝淵正人

桑名病院 木嶋徳子 前田美奈子

新潟リハビリテーション病院 遠山郁子

### はじめに

我々は第 34 回日本作業療法学会にて、健常者における排便後「紙で拭く」工程の動作分析をおこなった。結果、拭く際の一般的な拭き方は 6 通りあり、どの拭き方もメリットとデメリットがあることが示唆された。そこで今回、この結果をふまえて、脳卒中片麻痺者では、実際どのような拭き方の傾向があるのか、そしてその拭き方を用いる理由は何かを、観察・分析したので以下に報告する。

### 対象者

当院に入院した 36 歳から 89 歳までの脳卒中片麻痺者 30 名 (平均年齢 69.4 ± 13.5 歳)。男性 15 名、女性 15 名。

### 方法

入院中に、当院の作業療法士、看護婦、介護職員が、実際の排便場で「紙で拭く」動作を観察した。拭き方は、昨年得られた健常者の 6 つの拭き方 (①後ろから体幹屈曲②後ろから骨盤前傾③後ろから半立位④前から坐位⑤前から半立位⑥横から) にて分類した。また、対象者全例に対して下肢機能 (Br. stage) および体幹機能評価 (吉尾ら) について評価し、排便後の拭き方との関連について検討した。

### 結果

脳卒中片麻痺者の拭き方を図 1 に示す。我々が以前おこなった健常者の場合は、どれも有意差はなかったのに対して、片麻痺者の場合は、「前から坐位で」拭く者が有意に多かった。

「前から坐位で」拭く者とそれ以外の者の下肢 Br. Stage の割合を図 2 に示す。前から坐位で拭く者は Br. Stage が低い者が多く、それ以外の方法で拭く者は高い者が多かった。

同様に、体幹機能を比較してみると、「前から坐位で」拭く者は、それ以外の者より体幹機能が低かった (図 3)。

### 考察

脳卒中片麻痺者が「前から坐位で」拭く者が多くなっ



図 1. 健常者と片麻痺者の拭き方

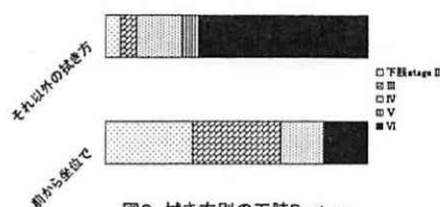


図 2. 拭き方別の下肢 Br. stage

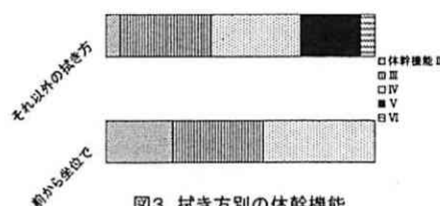


図 3. 拭き方別の体幹機能

たことは、下肢の支持性や、体幹・骨盤の支持性・安定性・随意性が低下したことにより、割合が増加したものと考えられる。

病前、半立位で拭いていた者は、下肢の支持性が低下すると、今までの拭き方では困難が生じ、危険性も高いであろう。また、後ろから拭いていた者は体幹安定性低下に伴い、体幹回旋が困難となる。さらに、横から拭いていた者は体幹・骨盤の安定性・随意性が低下すると、半立位や後ろからと同様に危険性が高くなるであろう。

結果、下肢・体幹機能に低下のある片麻痺者は、下肢の支持性や体幹の安定性が最小限ですむ拭き方として、自らによって今までの方法から、よりやりやすい方法を模索しているのだと考えられる。

今回の結果より、臨床作業療法をすすめる際に、下肢の Br. Stage が低い者や、体幹機能の低下した者の中には、病前と拭き方を変更している者が少なからず存在するということを考慮しなければならないと思われた。

以上より、我々作業療法士が、実際に排便動作訓練をおこなう際に、対象者の体幹・骨盤・下肢の機能を評価し、対象者の「安全性」を考慮した上で訓練・指導をおこなう必要がある。またその際に、「紙で拭く」動作というのは対象者が長年おこなってきた習慣となっていることも考え、それを変更する必要性を十分に説明・指導をおこなわなければならないと考えられる。